

2017 年 3 月 3 日

認定審査結果報告書

一般社団法人日本技術者教育認定機構

(1) 審査プログラム

教育機関名： 宮崎大学 工学部

認定プログラム名： 情報システム工学科日本技術者教育認定機構認定プログラム

認定分野： CS（コンピュータ科学）分野

(2) 審査結果

認定審査結果： 認定を可とする。

審査結果の内容： 別添の「審査結果」に記載。

認定期間： 2016 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日の 3 年間

(3) 次回審査の内容・手続き

次回審査年度： 2019 年度

審査の種類： 中間審査（通常審査）

自己点検書の審査と実地審査による「通常審査」を実施。

審査項目： 別添の「審査結果」の ACWD 判定欄のすべての W 項目および括弧付で示した C 項目。

中間審査の場合、中間審査項目のみが審査対象となります。プログラム運営組織は審査項目の他に審査を希望する項目（「参考項目」）を指定することができますが、参考項目についての判定は行いません。

(4) 認定プログラム修了生の管理について

別添の「JABEE 認定プログラム修了生の名簿管理と修了証明書類の発行について」に従って、厳正な管理をお願いします。

(5) 依頼事項

- ・ 認定期間中に、学部・学科・プログラム名の変更が発生した時は、毎年 JABEE からご提出を依頼する「年次報告」により JABEE 事務局にお届けください。詳しくは下記をご参照願います。

<http://www.jabee.org/accreditation/basis/documents/>

- ・ 別添の「審査結果」は、JABEE の各審査過程を経た最終報告ですので、貴方で必要があれば内容の公表は可能ですが、先に実地審査後にお渡しした一次審査報告書記載の判定内容については審査の中間段階のものであり、今後も公表しないように願います。
- ・ 審査を担当した審査チームの個人名、および JABEE から提供した審査チーム構成メンバーの個人情報については、今後も秘密厳守願います。
- ・ JABEE 認定審査に関わるご連絡を E メールにてお送りすることがございますので、JABEE 対応責任者およびプログラム責任者の変更が生じた際は、速やかに JABEE 事務局 (E-mail accreditation@jabee.org) までご連絡ください。

以上

日本技術者教育認定機構
〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20
(建築会館 4F)
電話 03-5439-5031
FAX 03-5439-5033
E-mail accreditation@jabee.org

自己点検書

(1. 概要編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2012 年度～）

適用年度：2016 年度

宮崎大学

情報システム工学科

日本技術者教育認定機構認定プログラム

(情報専門系学士課程)

(CS (コンピュータ科学) 分野)

Computer Science and Engineering

審査分類：認定継続審査

提出日 2016 年 7 月 1 日

1.1 プログラム情報

- (1) 高等教育機関名およびその英語表記：宮崎大学

University of Miyazaki

- (2) プログラム名：情報システム工学科 日本技術者教育認定機構認定プログラム

- (3) Program Title (プログラムの専門分野名の英語表記)：

Computer Science and Engineering

- (4) 学位名：学士 (工学)

- (5) 連絡先

- ・ JABEE 対応責任者氏名：横田 光広

所属・職名：工学教育研究部・工学教育研究部長

郵便番号：889-2192

住所：宮崎市学園木花台西 1 - 1

電話番号：0985-58-2869

ファックス番号：0985-58-2869

メールアドレス：t0b210u@cc.miyazaki-u.ac.jp

- ・ プログラム責任者氏名：片山 徹郎

所属・職名：工学教育研究部・准教授

郵便番号：889-2192

住所：宮崎市学園木花台西 1 - 1

電話番号：0985-58-7586

ファックス番号：0985-58-7586

メールアドレス：kat@cs.miyazaki-u.ac.jp

1.2 プログラム概要（プログラムの概要を2ページ程度で簡潔に記載する）

1. プログラムの沿革（これまでの学科／専攻・コース改組の経緯など）

本プログラムの母体である宮崎大学工学部情報工学科は、情報処理技術に関する専門知識を有し、広く他の工学分野に対し情報処理技術を応用できる技術者・研究者を養成することを目的として、1990年に設置された。その後の情報化社会の急激な発展に伴い、情報通信社会を支える技術者の需要は増大し、技術者に求められる内容も高度化していった。このような要請にこたえるため、1999年に情報工学科を改組し、情報システム工学科が設置された。情報システム工学科は、情報工学科の特徴を継承発展させた学科であり、情報工学の高度な専門知識と現実世界での問題解決能力を兼ね備えた人材の育成を行うことを目的とした。

2003年に日本技術者教育認定機構(JABEE)の新規受審の準備を行っていた過程で、情報技術の応用分野の広がりや学生の進路の多様化に応えるべく、情報システムの専門家を養成する「情報システム専修コース」と、情報工学を基礎とした幅広い分野の工学技術者を養成する「情報システム応用コース」の2つのコースを設ける（1学科2教育コース）こととした。「情報システム専修コース」は、2005年にJABEEの新規審査を受審し、認定プログラムとなっている。「情報システム専修コース」はその後、2007年の中間審査、2010年の継続審査を経て、継続して認定を受けている。

2012年の学部改組を契機に、学科のカリキュラムを見直し、「情報システム応用コース」を廃し、学科内の教育プログラムを「情報システム専修コース」のみ（1学科1教育コース）とした。また同時に、学習・教育到達目標を、JABEEの認定基準の改定に対応するために、表現をより具体的に改めた。

2. 修了生の進路と育成する技術者像との関係

本プログラムは、本学のスローガン「世界を視野に地域から始めよう」に基づき、社会に出た後、広範な場で情報工学の専門家として活躍しうる学生の育成を目指している。

学科の教育方針「社会からの人材育成ならびに21世紀の情報通信社会を支える人材育成の需要を考え、情報科学の理論、計算機の構成や基本ソフト、情報解析技術などの基礎情報科学分野と、情報ネットワーク、生産情報システムなどの産業情報システム分野の双方で幅広く活躍できる人材の育成を目指す。」のもと、教育目標として「情報化社会の急激な発展に伴い、時代が要請する最新の情報処理技術の開発にも携われるような先進的情報処理技術者を育成すること」と「産業界での大規模情報システムの開発に不可欠な、システム洞察力やモデル化能力、創造的システム設計能力を備えた情報技術者を育成すること」を掲げている。

以上をより具体的に、12項目のディプロマポリシーとしてまとめている。

3. 学習・教育到達目標の特徴や水準

本プログラムは、学習・教育到達目標として、大項目 3 つ（A. 工学技術者としての基礎的素養、B. 情報の専門技術者としてどの分野でも活躍できる能力、C. 自己学習能力および他者と協働して計画を遂行する能力）を置いている。これらは、学科で設定している 12 項目のディプロマポリシーを達成するために、プログラム修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として設定している。また本学科では、学科の教育目標（上記「2. 修了生の進路と育成する技術者像との関係」参照）で育成するとしている技術者を、社会が理工系情報学科卒業の学生に期待する水準と考えている。これと同等の水準で、学習・教育到達目標を設定している。

4. 関連する他の教育プログラム（関連学科／専攻、関連コース等）との関係

関連する他の教育プログラムは無い。

5. カリキュラム上の特色

本プログラムは、学科で設定している 12 項目のディプロマポリシーを達成するために、9 項目のカリキュラムポリシー（4 項目の教育課程の編成の方針と 5 項目の実施の方針から成る）を設定している。特に専門分野については、情報工学の基礎から応用までバランスよく学習できるカリキュラムを編成している。情報工学の専門的能力とそれを応用するのに必要な総合的能力を育成するために、「コンピュータ科学 J07-CS カリキュラム」のコアユニットを必修とした科目群によりカリキュラムを編成している。さらに、単なる知識の修得だけではなく、実システムの開発に必要な情報システムを設計するデザイン能力、実装および評価する実践力、加えて、課題探求能力、自己表現力を育成するために、4 年間を通して、プログラミング演習とセミナーを配置している。

6. その他の特色

上記以外の本プログラムの特色として、以下の点がある。

- 学科一丸となって、本プログラムに取り組んでいる点
- 学生自身が学習・教育到達目標の達成度を自己点検できるシステム（キャリア支援システム）を構築している点
- 毎学期終了時に教員間ネットワークを開催し、授業内容および実績を紹介し、前修科目と後修科目への要求、伝達を行い、全教員に周知徹底している点
- 学科専用の情報教育用計算機システムと 2 つの演習室を有し、充実した演習科目を実施している点
- 基礎教育、専門教育といった区分にとらわれず、学士課程カリキュラムを、学生の学修成果という観点から、基礎、応用、発展の 3 グループに分け、在籍期間の教育活動全体を通じて教育課程を編成している点。

1.3 最近の教育改善の状況

学生の学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果に基づいた点検として、学科内に、教育目標に基づき教育実績の評価と点検を行う「教育実績評価・点検委員会」を組織しており、当該委員会主導のもと、学科に所属する教員が担当した講義・演習について報告・議論を行う教員間ネットワークを、学期ごとに開催している。また、学部が設置した「キャリア支援システム」上で、プログラムの学習・教育到達目標の達成状況を学生ごとに点検できる仕組みを整えており、各学年担任が修学指導を行っている。加えて、基礎教育においては、「宮崎大学基礎教育自己点検・評価専門委員会」が設置されており、当該委員会によって、「学生による授業評価」および「教員 FD 活動レポート」が実施されている。さらに、学部教育改革推進センター・FD 部門により、学生に対して「授業改善に関する学生によるアンケート」を、学生の卒業時に「卒業生アンケート」を行い、4 年間の教育全般について点検を行っている。

社会の変化に対応した点検として、学生の企業見学会の場を活用し、地域 ICT 企業団体との意見交換会を実施している。

点検結果に基づく改善として、2012 年度にカリキュラムを改定した。2008 年に工学部長から工学部将来計画委員会に対し、社会の変化に対応した工学部のあり方について諮問が行われ、企業や卒業生へのアンケート、中央教育審議会答申等に基づき、2010 年に工学部改組の方向性が示された。これを受け学科でも検討を開始し、「コンピュータ科学 J07-CS カリキュラム」のコアユニットを必修とした科目群により新カリキュラムを編成し、2012 年度に移行した。この際に、従来「情報システム専修コース」(JABEE 認定)と「情報システム応用コース」の 1 学科 2 コースだったカリキュラムを一本化し、現在に至っている。

また、個々の講義・演習については、学期ごとに教員間ネットワークの場で意見交換を行っており、継続的な改善を図っている。プログラム全体については、毎年度実施している学科自己点検に対する学部評価委員会による点検、学部による点検結果に対する宮崎大学評価室による点検、2008 年度から毎年度実施している企業との意見交換会において改善の要求は顕在化しておらず、現在の教育活動に問題はないと判断している。

最近の教育改善の状況として、アクティブラーニングの導入とシラバスの改善を行った。教育の質保証をめぐる社会からの要請を受けて、宮崎大学は、2014 年に学士課程教育を再編した。この中で、ディプロマポリシーに応じた学士課程教育の実現と教養教育の改革を行った。これに伴い、工学部教育改革推進センターが中心となりアクティブラーニングの導入が進められており、現在 5 科目でアクティブラーニングを実施している。また、2013 年に大学教育委員会において「シラバス策定のためのガイドライン(シラバス作成要領)」が定められ、授業計画や評価方法が明示され改善が行われている。

前回の JABEE 審査(2010 年)については、4 項目について「C」と指摘された。これら

の指摘は、以下の 3 項目に分類できる。

- 1) これまでの取り組みにより改善しているものの、共通科目のシラバスの一部に、授業計画や評価方法が分かりづらいものがある。より一層の改善が望まれる。(前回の番号 3.2(2))
- 2) 複数の学習・教育目標の達成が期待される科目(卒業研究、情報工学特別演習 Ia、情報工学特別演習 IIa)のシラバスに、関連する各学習・教育目標の個別の評価法が記載されていない。実際には個別の評価が行われていることは実地審査で確認できたが、シラバスには何を評価対象とし、どのような基準で評価するのかが十分に示されていないため、改善が望まれる。(前回の番号 3.2(2), 5(3), 5(4))
- 3) 編入生に対する単位認定の方法は定められているが、共通科目の一部に学士課程レベルの授業であることの確認が不十分なものがあるため、改善が望まれる。(前回の番号 5(2))

これらの指摘事項に対して行った教育改善は、以下の通りである。

- 1)については、2013 年に大学教育委員会において「シラバス策定のためのガイドライン(シラバス作成要領)」が定められ、基礎教育科目(前回受審時：共通教育科目)のシラバスは、授業計画や評価方法が明示的に記載され改善された。
- 2)については、科目「卒業研究」「プログラミング演習 5 (前回受審時、情報工学特別演習 Ia)」「プログラミング演習 6 (前回受審時、情報工学特別演習 IIa)」のシラバスに、科目内の評価項目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係を記載し、対応する学習・教育到達目標がどのように評価されるかを明示した。
- 3)については、基礎教育科目(英語)の単位認定について、学士レベルの授業であるべきことに注意し、単位認定を行っている。

1.4 自己点検結果編の総括文

すべての点検項目について、「認定基準の要求事項を十分に満たしている」と判断している。

・学習・教育到達目標の設定と公開について

本プログラムが育成しようとする自立した技術者像は、学科の教育目標の中で掲げている「時代が要請する最新の情報処理技術の開発にも携われるような先進的情報処理技術者」と「システム洞察力やモデル化能力、創造的システム設計能力を備えた情報技術者」である。これらをより具体的に、本プログラム修了生が身に着けるべき能力という形で、12項目のディプロマポリシーとしてまとめている。現在の技術者像は、本プログラム設置当初に設定された「教育目標」を元に修正を加えてきたものであり、表現等の変化はあるが、本プログラムの伝統を踏襲したものである。また、この教育目標は、修了生の活躍分野を意識して設定したものになっている。

教育の質保証をめぐる社会からの要請を受けて、本学全体で学士力の向上を目指す取り組みがなされてきている。その一環としてディプロマポリシーの点検が行われ、現在のディプロマポリシーはその結果を反映したものとなっている。なお、そのような要求・要望をくみ取るシステムの1つとして、企業と教員との意見交換会を定期的に行っている。

本プログラムが育成しようとする自立した技術者像は、入学者選抜要項で公開している。さらに、学科のディプロマポリシーとして、宮崎大学案内、キャンパスガイド、および、工学部 Web ページ、学科 Web ページにより公開している。

学習・教育到達目標は、このディプロマポリシーを達成するために、修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として設計しており、JABEE が定める基準 1(2) (a)～(i)の各内容の具体化として、3 個の大項目と 12 個の小項目を設定している。当プログラムでは、学科の教育目標で育成するとしている技術者を、社会が理工系情報学科卒業の学生に期待する水準と考えている。学習・教育到達目標の水準は、この水準と同等に設定している。

学習・教育到達目標は、キャンパスガイド、学科 Web ページにより学内外に公開している。教員には、学科会議や教員間ネットワークを使って周知している。学生には、キャンパスガイド、学科 Web ページで周知しているとともに、各年度の初めに実施される学年別オリエンテーションで配布している「履修の手引き」の中に記載し、口頭でも説明している。

・教育手段について

本プログラムは、学科で設定している 12 項目のディプロマポリシーを達成するために、9 項目のカリキュラムポリシー（4 項目の教育課程の編成の方針と 5 項目の実施の方針から成る）を設定している。このカリキュラムポリシーに従い、各学習・教育到達目標を達成できるようにカリキュラムを設計している。このカリキュラム設計のもと、科目ごとに

授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスに、前修科目、同時期開講科目を記載することで、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けを明らかにしている。また、シラバスには、教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準の各項目について記述している。

シラバスに従った教育を実施していることの確認のために、「授業改善に関する学生によるアンケート」において、各科目がシラバスに沿って進められたかを確認している。また、各学期の終わりに教員間ネットワークを開催し、全教員に実施状況に関する報告を義務付けている。

学生の主体的な学習を促すために、アクティブラーニングを取り入れた講義を行い、学生の在籍中の主体的な取り組みに対して工学部がキャリア支援システム「キャリアディベロップメント証明書」を発行している。また、受講できる単位の上限数を、原則半期 24 単位と定め、各科目のシラバスに自習や予習などの目安時間を記入し、「授業改善に関する学生によるアンケート」において授業の事前準備、授業後の学修、試験準備に要した学修時間を確認することで、自己学習時間を確保する取り組みを行っている。

学生は、「キャリア支援システム」により学習・教育到達目標の達成度を点検でき、担任または指導教員の履修指導により、キャリア支援システムで単位修得状況を点検し、履修に反映させている。また、学習・教育到達目標に到達したことを評価するための定期試験、小テスト、レポートなどの評価物は、学生に返却するか閲覧させるようにしているため、学習者は自分自身の達成状況を継続的に点検し、それを学習に反映させている。

プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるため、アドミッションポリシーを定め、このアドミッションポリシーに沿った各種入試選抜方法を各入試要項に定め、これに沿って選抜を行っている。

・学習・教育到達目標の達成について

個々の科目ごとに、シラバスに定めた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度を評価している。学生が他の高等教育機関等で取得した単位については、その評価方法を規程で定めている。

プログラムの各学習・教育到達目標に対して、複数の必修科目を主要科目とし、主要科目群の修得により、各学習・教育目標に対する達成度の総合評価を実施している。なお、修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成している。

・教育改善について

学科内に、教育目標に基づき教育実績の評価と点検を行う「教育実績評価・点検委員会」を組織している。さらに、「キャリア支援システム」上で、プログラムの学習・教育到達目標の達成状況を学生ごとに点検できる仕組みを整えている。

各学期で開講した専門科目の講義・演習について報告・議論を行う教員間ネットワークを開催しており、講義・演習ごとに作成する授業記録ファイルには、当該講義における改善点や学生による「授業改善に関する学生によるアンケート結果」を掲載し教員間で相互に点検している。

学部教育改革推進センター・FD 部門により、学生に対して「授業改善に関する学生によるアンケート」を、学生の卒業時に「卒業生アンケート」を行い、4 年間の教育全般について点検を行っている。また、入学年度、および卒業年度に、教育・学生支援センターにより、「学習カルテ：アンケート」が実施されている。さらに、学生の企業見学会の場を活用し、地域 ICT 企業団体との意見交換会を実施している。

学科内に、教育目標および教育システムの継続的な点検・改善に関する事項を所掌する「教育システム点検・改善委員会」を組織している。教育システム点検・改善委員会の報告に基づき、教育目標を達成するための実施計画を検討・作成する「教育実施計画検討・作成委員会」を組織している。教育システム点検・改善委員会、教育実施計画検討・作成委員会、教員間ネットワークでの議論に基づき、プログラムの改善を継続的に行っている。

自己点検書

(2 . 自己点検結果編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2012年度～）
適用年度：2016年度

宮崎大学

情報システム工学科 日本技術者教育認定機構認定プログラム

（情報専門系学士課程）
（CS（コンピュータ科学）分野）

Computer Science and Engineering

審査分類：認定継続審査

提出日 2016年 7月 1日

記入上の注意

- ・白色のセルにのみ記入してください。着色及び網かけのあるセルには記入しないでください。
- ・「自己判定結果」欄に、プログラム側の視点で自己判定結果を記入してください。
自己判定の指標は下記のとおりです。
 - ◎：認定基準の要求事項を満たし、さらにそれを上回る取り組みを行っている
 - ：認定基準の要求事項を満たしている
 - △：認定基準の要求事項を概ね満たしているが、改善の余地がある
- ・「基準への適合状況の説明」欄に説明を簡潔に記入してください（多くても200文字程度を目安）。
- ・「前回受審時からの改善・変更」欄には、下記の説明を記入してください（多くても200文字程度を目安）。なお、新規審査の場合は記入不要です。
 - (1) 前回受審時の「W：弱点」に対する対応
 - (2) 前回受審時の「[C]：懸念」に対する対応
 - (3) その他の前回受審時からの改善、変更
- ・「根拠資料」欄には、根拠となる資料の名称と整理番号又はWebページのURLを記入してください。
添付資料、実地審査閲覧資料には整理番号を付し、該当する資料の整理番号を「根拠資料」欄に記入してください。
なお、整理番号は、添付資料と実地審査閲覧資料が区別できるよう付してください（例：TxxとJxx）。
この欄に記載した資料に対応させて、添付資料編の表5及び表6の一覧表を作成してください。
Webページで公開されているものについてはURLを記入してください。その場合でも、負担にならない範囲で自己点検書の添付資料に含めてください。

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1	基準 1 学習・教育到達目標の設定と公開				
1(1)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていること。この技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものであり、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものであること。さらに、その技術者像が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員および学生に周知されていること。				
1(1)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていますか？	◎	本プログラムが育成しようとする自立した技術者像は、学科の教育目標の中で掲げている「時代が要請する最新の情報処理技術の開発にも携われるような先進的情報処理技術者」と「システム洞察力やモデル化能力、創造的システム設計能力を備えた情報技術者」である。これらをより具体的に、本プログラム修了生が身に着けるべき能力という形で、12項目のディプロマポリシーとしてまとめている。	前回受審時の技術者像に求める能力は、その表現が抽象的なものであった。そこで、修了生が身に付けるべき能力をまとめた「ディプロマポリシー」という形で具体的に整理した。	【T01】学科ディプロマポリシー変遷のまとめ 【J01】ディプロマポリシーに関する学科での議論(平成22年度第42回、平成23年度第15回、平成25年度第36回、平成28年度第4回教室会議議事録) ・(旧)情報システム工学科Webページ(情報システム工学科 教育方針・教育目標(2007年度版案)) http://former.cs.miyazaki-u.ac.jp/kyoiku/2007/main.html ・学科Webページ(教育方針・教育目標について) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/education/
1(1)[2]	上記の技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものですか？	◎	現在の技術者像は、本プログラム設置当初に設定された「教育目標」を元に修正を加えてきたものであり、表現等の変化はあるが、本プログラムの伝統を踏襲したものである。また、この「教育目標」は、修了生の活躍分野を意識して設定したものになっている。一方、学部改組に伴う構成教員の変化に応じて、育成しようとする技術者像「ディプロマポリシー」の改訂を行っている。	前回の受審後に学部改組が行われ、学科の構成教員に変更があった。このことに応じて、育成しようとする技術者像である「ディプロマポリシー」を修正している。ただしその際、プログラムの伝統は考慮し、極端な変更は行っていない。	【T01】学科ディプロマポリシー変遷のまとめ 【J01】ディプロマポリシーに関する学科での議論(平成22年度第42回、平成23年度第15回、平成25年度第36回、平成28年度第4回教室会議議事録) 【T02】教員名とその主な専門分野対応表 ・(旧)情報システム工学科Webページ(情報システム工学科 教育方針・教育目標(2007年度版案)) http://former.cs.miyazaki-u.ac.jp/kyoiku/2007/main.html ・学科Webページ(教育方針・教育目標について) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/education/
1(1)[3]	上記の技術者像は、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものですか？	◎	教育の質保証をめぐる社会からの要請を受けて、本学全体で学士力の向上を目指す取り組みがなされてきている。その一環として、ディプロマポリシーの点検が行われ、現在のディプロマポリシーはその結果を反映したものとなっている。そのような要求・要望をくみ取るシステムとして、企業との意見交換会を定期的実施している。また、学生の要望をくみ取る仕組みとしては、学部教育改革推進センター・FD部門により、「卒業生アンケート」が実施されている。	前回の受審後に、教育の質保証をめぐる社会からの要請を受けて、本学全体で学士力の向上を目指す取り組みがなされ、その一環として、学士課程教育検討拡大専門委員会からの指示により、ディプロマポリシーの点検が行われた。この点検作業の結果として、育成しようとする能力をより具体的に記述するように改めた。	【T01】学科ディプロマポリシー変遷のまとめ 【J01】ディプロマポリシーに関する学科での議論(平成22年度第42回、平成23年度第15回、平成25年度第36回、平成28年度第4回教室会議議事録) 【J02】学士課程教育検討拡大専門委員会関連資料 【T03】平成25年度企業見学会報告書 【T04】平成27年度「卒業生アンケート」調査用紙 【J03】平成27年度「卒業生アンケート」集計結果

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(1)[4]	上記の技術者像は、広く学内外に公開されていますか？	◎	本プログラムが育成しようとする自立した技術者像は、「入学者選抜要項」「学科Webページ」で公開している。さらに学科のディプロマポリシーとして、「宮崎大学案内」「キャンパスガイド」「工学部Webページ」「学科Webページ」により公開している。	キャンパスガイドにもディプロマポリシーを掲載するようにした。	【J04】平成29年度入学者選抜要項 ・学科Webページ(教育方針・教育目標について) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/education/ ・宮崎大学案内2017 http://www.miyazaki-u.ac.jp/guide/files/daigakuannai2017.pdf 【J05】宮崎大学案内 【T05】工学部のディプロマポリシー(平成28年度キャンパスガイドp.156) 【J06】平成28年度キャンパスガイド ・工学部Webページ(ディプロマポリシー一覧) http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/pdf/dp_b_h28.pdf ・学科Webページ(教育：ディプロマポリシー) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/education/
1(1)[5]	上記の技術者像は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	◎	技術者像の設定と変更は、学科の全教員が参加する教室会議の審議を経て決定しているので、教員には周知している。学生については、各年度の授業期間開始前に、学年別にオリエンテーションを実施し、その際に資料として「履修の手引き」を配布するとともに、口頭でも説明している。さらにディプロマポリシーについての認知度を調査するアンケートも実施されている。	学生に対して、ディプロマポリシーについての認知度を調査するアンケート(ディプロマポリシーアンケート)により、ディプロマポリシーの周知の度合いを調査するようにした。	【J01】ディプロマポリシーに関する学科での議論(平成22年度第42回、平成23年度第15回、平成25年度第36回、平成28年度第4回教室会議議事録) 【T06】平成28年度オリエンテーション開催案内 【T07】宮崎大学工学部情報システム工学科「履修の手引き」平成28年度版平成28年度入学生用(p.2ディプロマポリシー) 【J07】ディプロマポリシーに関するアンケート回答用紙、集計結果
1(2)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものであり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習・教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。なお、学習・教育到達目標を設定する際には、(a)～(i)に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。				
1(2)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていますか？	◎	当プログラムが育成しようとする自立した技術者像とは、現在、学科のディプロマポリシーとして設定・公開されているものである。学習・教育到達目標は、このディプロマポリシーを達成するために、修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として設計している。	2012年度に、工学部改組が実施されたことに伴い、各学科の3ポリシー「アドミッションポリシー」、「カリキュラムポリシー」、「ディプロマポリシー」の文言や体裁の統一がされた。このとき、3ポリシーの内容を整理し、改組による構成教員の変化による「開講科目」や「就職分野」の変更に対応するために「学習・教育目標」を修正した。	【T02】教員名とその主な専門分野対応表 【T08】「ディプロマポリシー」と「学習・教育到達目標」の対応表 ・学科Webページ(教育方針・教育目標について) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/education/
1(2)[2]	学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものですか？				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[2](a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養	◎	添付資料【表1】、【表2】および【T11】に示す通り、本プログラムの学習・教育到達目標A-1により具体化している。	2012年度に、工学部改組に伴う構成教員の変化による「開講科目」や「就職分野」の変更に対応するために「学習・教育目標」を修正した。これにより、本項目に対応する学習教育目標とそれを担保する授業科目を、【T09】から【T10】に示すものに変更した。 その後、2014年度に、共通教育のカリキュラムの変更に伴う授業科目の一部修正を経て、2016年度に「学習・教育目標」から「学習・教育到達目標」への変更に対応するため、本項目に対応する学習教育目標とそれを担保する授業科目は、【T11】に示すものに変更した。	【表1】学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応 【表2】学習・教育到達目標と評価方法および評価基準 【T09】カリキュラムの科目と学習・教育到達目標の対応表(2010年度版) 【T10】カリキュラムの科目と学習・教育到達目標の対応表(2012年度版) 【T11】カリキュラムの科目と学習・教育到達目標の対応表(2016年度版)
1(2)[2](b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解	◎	添付資料【表1】、【表2】および【T11】に示す通り、本プログラムの学習・教育到達目標A-2により具体化している。	同上	同上
1(2)[2](c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力	◎	添付資料【表1】、【表2】および【T11】に示す通り、本プログラムの学習・教育到達目標A-3およびB-1により具体化している。	同上	同上
1(2)[2](d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力	◎	添付資料【表1】、【表2】および【T11】に示す通り、本プログラムの学習・教育到達目標B-1、B-2およびB-3により具体化している。	同上	同上
1(2)[2](e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	◎	添付資料【表1】、【表2】および【T11】に示す通り、本プログラムの学習・教育到達目標B-4により具体化している。	同上	同上
1(2)[2](f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	◎	添付資料【表1】、【表2】および【T11】に示す通り、本プログラムの学習・教育到達目標C-1およびC-2により具体化している。	同上	同上
1(2)[2](g)	自主的、継続的に学習する能力	◎	添付資料【表1】、【表2】および【T11】に示す通り、本プログラムの学習・教育到達目標C-3により具体化している。	同上	同上
1(2)[2](h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力	◎	添付資料【表1】、【表2】および【T11】に示す通り、本プログラムの学習・教育到達目標C-4により具体化している。	同上	同上
1(2)[2](i)	チームで仕事をするための能力	◎	添付資料【表1】、【表2】および【T11】に示す通り、本プログラムの学習・教育到達目標C-5により具体化している。	同上	同上
1(2)[3]	学習・教育到達目標は、水準も含めて設定されていますか？	◎	当プログラムでは、学科の教育目標で育成するとしている技術者を、「社会が理工系情報学科卒の学生に期待する水準」と考えている。学習・教育到達目標の水準は、この水準と同等に設定している。 学習・教育到達目標の水準が「社会が理工系情報学科卒の学生に期待する水準」を満たしていることについては、「コンピュータ科学J07-CSカリキュラム」のコアユニットを必修とした科目群により、現在のカリキュラムを編成していること、また、定期的実施されている企業との意見交換会での要求・要望をくみ取ることで保証している。	なし	・学科Webページ(日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定プログラムについて) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/jabee/ ・カリキュラム標準 コンピュータ科学J07-CS http://www.ipsj.or.jp/12kyoiku/J07/20090407/J07_Report-200902/4/J07-CS_report-20090120.pdf ・コンピュータ科学領域(J07-CS) http://www.ipsj.or.jp/12kyoiku/J07/20090407/J07_Report-200902/2/IPSJ-MGN4907_J07-CS-200806.pdf 【T03】平成25年度企業見学会報告書
1(2)[4]	学習・教育到達目標は、広く学内外に公開されていますか？	◎	「キャンパスガイド」、「学科Webページ」により公開している。	なし	【T12】情報システム工学科「1. 学習・教育到達目標」(平成28年度キャンパスガイドp. 212) 【J06】平成28年度キャンパスガイド ・学科Webページ(教育方針・教育目標について) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/education/
1(2)[5]	学習・教育到達目標は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	◎	教員には、「学科会議」や「教員間ネットワーク」を使って周知している。学生には、「キャンパスガイド」、「学科Webページ」で周知している。また、各年度の初めに実施される学年別オリエンテーションで配布される「履修の手引き」の中に記載し、口頭でも説明している。	なし	【J06】平成28年度キャンパスガイド ・学科Webページ(教育方針・教育目標について) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/education/ 【T06】平成28年度オリエンテーション開催案内 【T07】宮崎大学工学部情報システム工学科「履修の手引き」平成28年度版平成28年度入学生用

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2	基準2 教育手段				
2.1	2.1 教育課程の設計				
2.1(1)	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程（カリキュラム）が設計され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていること。なお、標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たすこと。				
2.1(1)[1]	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程（カリキュラム）が設計されていますか？	◎	カリキュラムポリシーに従い、【表3】に示すとおり、各学習・教育到達目標を達成できるようにカリキュラムを設計している。	学科で設定している12項目のディプロマポリシーを達成するために、9項目のカリキュラムポリシー(4項目の教育課程の編成の方針と5項目の実施の方針から成る)を設定した。	・学科Webページ(教育：カリキュラムポリシー) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/education/ 【表3】学習・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明
2.1(1)[2]	カリキュラムが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	◎	キャンパスガイドにカリキュラムを記載することで、教員及び学生に開示している。		【T13】情報システム工学科開講科目表(平成28年度キャンパスガイドpp.214-215) 【J06】平成28年度キャンパスガイド
2.1(1)[3]	カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていますか？	◎	【表4】に示すとおり、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係があり、学科Webページにプログラムの「修了要件」として開示している。		【表4】学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ ・学科Webページ(JABEE：修了要件) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/jabee/
2.1(1)[4]	標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たしていますか？	◎	標準修了年限は4年間であり、当該分野に相応しい数学・科学・技術に関する内容が7割程度(90/128)(単位数で計算)となるよう構成しており、情報専門系学士課程プログラムにおける必須事項を満たしている。		・宮崎大学学務規則(p.3第5条(修業年限)第6条(在学期間)) http://www.miyazaki-u.ac.jp/kitei/gakugai/koukaikitei/gakumukisoku.pdf 【T14】「2.履修方法」(情報システム工学科卒業に必要な単位数)(平成28年度キャンパスガイドp.213) 【J06】平成28年度キャンパスガイド
2.1(2)	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていること。また、シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていること。				
2.1(2)[1]	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成されていますか？	◎	【表3】に示すカリキュラムの設計のもと、学務情報システムWAKABAのシラバス登録項目に適切に入力し、各科目ごとに授業計画書(シラバス)を作成している。		【表3】学習・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明 ・シラバス https://syllabus.of.miyazaki-u.ac.jp/syllabus/index2.jsp
2.1(2)[2]	シラバスが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	◎	シラバスは、教員及び学生にWebページとして開示されている。		・シラバス https://syllabus.of.miyazaki-u.ac.jp/syllabus/index2.jsp

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.1(2) [3]	シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていますか？	◎	シラバスに、【前修科目】【同時期開講科目】を記載することで、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けを明らかにしている。また、教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準については、2013年に大学教育委員会において「シラバス作成のためのガイドライン(シラバス作成要領)」が定められ、その中で、それらの項目はすべてシラバスを構成する項目として定義されている。学務情報システムWAKABAにそれらの入力項目があり、入力した情報を、シラバスとして開示している。	前回受審時に、「共通科目のシラバスの一部に、授業計画や評価方法が分かりづらいものがある。より一層の改善が望まれる。」との指摘を受けた。2013年に大学教育委員会において「シラバス作成のためのガイドライン(シラバス作成要領)」が定められ、基礎教育科目(前回受審時：共通教育科目)のシラバスは、授業計画や評価方法が明示的に記載され改善された。 前回受審時に、「複数の学習・教育目標の達成が期待される科目(卒業研究、情報工学特別演習Ia、情報工学特別演習IIa)のシラバスに、関連する各学習・教育目標の個別の評価法が記載されていない。(中略)シラバスには何を評価対象とし、どのような基準で評価するのかが十分に示されていないため、改善が望まれる。」との指摘を受けた。「卒業研究」「プログラミング演習5(前回受審時、情報工学特別演習Ia)」「プログラミング演習6(前回受審時、情報工学特別演習IIa)」のシラバスに、科目内の評価項目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係を記載し、対応する学習・教育到達目標をどのように評価するか明示した。	・シラバス https://syllabus.of.miyazaki-u.ac.jp/syllabus/index2.jsp 【T15】シラバス作成のためのガイドライン(シラバス作成要領) 【T16】「卒業研究」シラバス 【T17】「プログラミング演習5」シラバス 【T18】「プログラミング演習6」シラバス
2.1(2) [4]	シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていますか？	◎	時間割表により全学年の授業時間を示している。		・学部Webページ(平成28年度情報システム工学科専門科目時間割計画：前期) http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/kyouiku/pdf/schedule/n_joh_zen.pdf ・同、後期 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/kyouiku/pdf/schedule/n_joh_kou.pdf
2.2	2.2 学習・教育の実施				
2.2(1)	シラバスに基づいて教育が行われていること。				
2.2(1) [1]	シラバスに基づいて教育が行われていますか？	◎	シラバスに従った教育を実施していることの確認のために、「授業改善に関する学生によるアンケート」において、各科目がシラバスに沿って進められたかを確認している。また、各学期の終わりに「教員間ネットワーク」を開催し、全教員に実施状況に関する報告を義務付けている。		【T19】平成27年度「授業改善に関する学生によるアンケート」調査用紙 【T20】「授業改善に関する学生によるアンケート」集計結果 【J08】平成27年度情報システム工学科FD活動報告 【T21】授業記録ファイル例 【J09】授業記録ファイル
2.2(2)	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.2(2) [1]	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていますか？	◎	カリキュラムポリシーの【実施の方針】6.に基づくアクティブラーニングを取り入れた講義を行い、学生の在籍中の主体的な取り組みに対して工学部がキャリア支援システム「キャリアディベロップメント証明書」を発行し、主体的な学修を促している。また、受講できる単位の上限数を、原則半期24単位と定め、各科目のシラバスに自習や予習などの目安時間を記入し、「授業改善に関する学生によるアンケート」において授業の事前準備、授業後の学修、試験準備に要した学修時間を確認することで、自己学習時間を確保する取り組みを行っている。	学科で設定している12項目のディプロマポリシーを達成するために、9項目のカリキュラムポリシー(4項目の教育課程の編成の方針と5項目の実施の方針から成る)を設定した。2014年より、工学部教育改革推進センターが中心となりアクティブラーニングの導入が進められており、現在、「プログラミング演習3」「プログラミング演習4」「知識情報処理」「プログラミング演習5」「プログラミング演習6」の5科目でアクティブラーニングを実施している。	・学科Webページ(教育：カリキュラムポリシー) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/education/ 【T22】「プログラミング演習3」シラバス 【T23】「プログラミング演習4」シラバス 【T24】「知識情報処理」シラバス 【T17】「プログラミング演習5」シラバス 【T18】「プログラミング演習6」シラバス ・シラバス https://syllabus.of.miyazaki-u.ac.jp/syllabus/index2.jsp 【J10】キャリア支援システム ・キャリア支援システム：キャリア・ディベロップメント証明書 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/sce/career-support/certificate.html 【T14】「2. 履修方法」(平成28年度キャンパスガイドp.213) 【J06】平成28年度キャンパスガイド 【T19】平成27年度「授業改善に関する学生によるアンケート」調査用紙 【T20】「授業改善に関する学生によるアンケート」集計結果
2.2(3)	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させ、それを学習に反映させていること。				
2.2(3) [1]	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させていますか？	◎	学生はキャリア支援システム「学習状況チェック(学習・教育目標ベース)」により学習・教育到達目標の達成度を点検できる。また、学習・教育到達目標に到達したことを評価するための定期試験、小テスト、レポートなどの評価物は学生に返却するか閲覧させるようにしているため、学生は自分自身の達成状況を継続的に点検している。	2012年から、キャリア支援システムを利用してポートフォリオの作成が可能となり、学生が学習・教育到達目標の到達度を確認できるように改善された。	【J10】キャリア支援システム ・工学部Webページ(キャリア支援システムへのリンク) http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/student/ 【T25】評価物の返却や解答の解説を実施している科目数
2.2(3) [2]	自分自身の達成状況の継続的な点検を学習に反映させていますか？	◎	学生は、担任または指導教員の履修指導により、キャリア支援システムで単位修得状況を点検し、履修に反映させている。また、学習・教育到達目標に到達したことを評価するための定期試験、小テスト、レポートなどの評価物は学生に返却するか閲覧させるようにしているため、学習者は自分自身の達成状況を継続的に点検し、それを学習に反映させている。	同上	【J10】キャリア支援システム 【T25】評価物の返却や解答の解説を実施している科目数
2.3	2.3 教育組織				
2.3(1)	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していること？				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(1) [1]	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していますか？	◎	工学部の教員は全員が工学教育研究部に所属し、専門分野と関連する科目を、教授4名、准教授5名、助教2名が情報システム工学科担当として教育を行っている。一部の専門科目や基礎教育科目は本学科担当以外の教員が担っている。カリキュラムを適切な教育方法によって展開していることの確認のために、各学期の終わりに「教員間ネットワーク」を開催し、全教員に実施状況に関する報告を義務付けている。教育支援組織として、工学部教務・学生支援係、工学部教育研究支援技術センター、教育研究支援室がある。また、プログラミング演習にはティーチングアシスタントを配置し、教育支援に充てている。		【T02】教員名とその主な専門分野対応表 【T13】情報システム工学科開講科目表(平成28年度キャンパスガイドpp. 214-215) ・工学部基礎教育センター http://www.miyazaki-u.ac.jp/techscee/ 【J08】平成27年度情報システム工学科FD活動報告 【T26】工学部建物平面図(平成28年度キャンパスガイドpp. 232-238) 【J06】平成28年度キャンパスガイド ・工学部教育研究支援技術センターWebページ(センター概要：組織図) http://www.teng.miyazaki-u.ac.jp/summary/outline/ 【T27】工学部教育研究支援室 【T28】演習科目のTA配置実績
2.3(2)	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織があり、それに基づく活動が行われていること。				
2.3(2) [1]	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織がありますか？	◎	カリキュラムポリシーの【実施の方針】9.にもとづき、カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織がある。		・学科Webページ(教育：カリキュラムポリシー) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/education/ 【J07】平成27年度情報システム工学科FD活動報告
2.3(2) [2]	上記の教員間連絡ネットワーク組織に基づく活動が行われていますか？	◎	上記の教員間連絡ネットワーク組織に基づく活動が行われている。		【J08】平成27年度情報システム工学科FD活動報告
2.3(3)	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.3(3) [1]	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがありますか？	◎	全学および工学部にFDに関する委員会があり各委員会が主催するFD研修会があり、教員の質的向上を図る取り組み(ファカルティ・ディベロップメント)を推進する仕組みがある。		【T29】宮崎大学FD専門委員会細則 【T30】工学部教育改革推進センターFD部門要項 ・学科Webページ(情報システム工学科FD委員会規程) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/jabee/FDkitei.html
2.3(3) [2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	全学FD研修・講演会については、宮崎大学教育・学生支援センターの「FD/SD研修会」Webページで周知されており、学部事務を通じて全学の教員にメールと掲示で案内が周知されている。学部FD講演会および学科のFD活動については教室会議で周知している。		・宮崎大学教育・学生支援センターWebページ(FD/SD研修会) http://www.miyazaki-u.ac.jp/cess/fd/kenshu.html ・宮崎大学FD/SD研修会開催の案内例 http://www.miyazaki-u.ac.jp/cess/fd/doc/fd20150710.pdf
2.3(3) [3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	◎	全学または学部のFD研修・講演会に参加している。		【T31】FD研修・講演会参加状況
2.3(4)	教員の教育活動を評価する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従って教育改善に資する活動が行われていること。				
2.3(4) [1]	教員の教育活動を評価する仕組みがありますか？	◎	教員の個人評価、教員の人事において、教育活動の評価が行われ、教員の教育活動を評価する仕組みがある。		【T32】工学教育研究部教員個人評価システムフローチャート 【T33】教員人事審査資料様式第3号-4「教育面における活動」

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(4) [2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されてますか？	◎	教員の個人評価、教員の人事について工学部教授会の承認を受け、教員向けに開示されている。		【T34】教員個人評価のための自己申告書提出に関する依頼メール 【T33】教員人事審査資料様式第3号-4「教育面における活動」
2.3(4) [3]	上記の仕組みに従って教育改善に資する活動が行われていますか？	◎	教員の個人評価は宮崎大学工学部教員個人評価実施要綱に基づき実施され、教員は、毎年、「PDCA自己申告書」と「教員個人評価のための自己申告書」を学部長に提出することで、教育改善に取り組んでいる。		【T35】PDCA自己申告書 【J11】教員個人評価のための自己申告書
2.4	2.4 入学、学生受け入れ及び異動の方法				
2.4(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって選抜が行われていること。				
2.4(1) [1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められていますか？	◎	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるため、アドミッションポリシーを定め、アドミッションポリシーに沿った各種入試選抜方法を各入試要項に定め、これに沿って選抜を行っている。		・大学Webページ(アドミッションポリシー) http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/admis_policy ・工学部Webページ(アドミッションポリシー) http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/files/ad-tecl.pdf ・学科Webページ(教育：アドミッションポリシー) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/education/ 【J04】平成29年度入学者選抜要項 【J12】一般入試学生募集要項 【J13】推薦入試学生募集要項 【J14】帰国子女・社会人・私費外国人留学生入試学生募集要項 【J15】宮崎大学工学部編入学学生募集要項（推薦入試・一般入試） ・大学Webページ(工学部編入学：学生募集要項) http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/hennyu/hennyu/techennyu1 ・宮崎大学案内2017 http://www.miyazaki-u.ac.jp/guide/files/daigakuannai2017.pdf 【J05】宮崎大学案内 【J16】宮崎大学工学部案内
2.4(1) [2]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が学内外に開示されていますか？	◎	受験生に配布される学生募集要項（一般、推薦、帰国子女・社会人・私費外国人留学生）およびホームページによって学内外に開示されている。		【T36】入学者選抜要項配布先一覧(県内) ・大学Webページ(アドミッションポリシー) http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/admis_policy ・工学部Webページ(アドミッションポリシー) http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/files/ad-tecl.pdf ・学科Webページ(教育：アドミッションポリシー) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/education/
2.4(1) [3]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法に従って選抜が行われていますか？	◎	公開している入試要項に定める内容に従い入試を行うために、入試実施要項を定め運用している。また、各年度の入学者数が示すように入試が実施され、必要な資質を持った学生を入学させるための選抜が行われている。		【J17】入試実施要項の例(平成28年度推薦入学(センター試験を課さない)における面接試験実施要項) 【T37】平成28年度宮崎大学入学試験実施状況 【T38】推薦入試・AO入試・帰国子女入試・社会人入試実施状況

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(2)	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的方法が定められ、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、それに従って履修生の決定が行われていること。				
2.4(2) [1]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的方法が定められていますか？		プログラム履修生は入学時及び編入時に決定するため、該当しない。	前回受審時は、本学科には「情報システム専修コース」と「情報システム応用コース」の2コースが存在したが、2012年の工学部改組を機に、「情報システム応用コース」を廃し、1学科1教育コースとなった。	
2.4(2) [2]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的方法が当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？		プログラム履修生は入学時及び編入時に決定するため、該当しない。	同上	
2.4(2) [3]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的方法に従って履修生の決定が行われていますか？		プログラム履修生は入学時及び編入時に決定するため、該当しない。	同上	
2.4(3)	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それに従って履修生の編入が行われていること。				
2.4(3) [1]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められていますか？	◎	他の高等教育機関からプログラム履修生として受け入れる編入制度が定められている。なお、編入制度および受験資格については宮崎大学学務規則第13条で規定されている。また、編入方法には、推薦入学と一般選抜が設定されている。		・宮崎大学学務規則(p.4第13条(再入学、編入学及び転入学)) http://www.miyazaki-u.ac.jp/kitei/gakugai/koukaikitei/gakumukisoku.pdf 【J18】面接試験を実施する入学者選抜試験の実施及び判定の方法に関する申し合わせ
2.4(3) [2]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法が学内外に開示されていますか？	◎	アドミッションポリシー、受験資格、編入年次(3年次)等は、受験生に配布される学生募集要項およびホームページによって学内外に開示されている。		【T39】アドミッションポリシー(宮崎大学工学部編入学学生募集要項p.10, p.16) 【T38】宮崎大学工学部編入学学生募集要項配布先一覧 【J15】宮崎大学工学部編入学学生募集要項(推薦入試・一般入試) ・大学Webページ(工学部編入学：学生募集要項) http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/hennyu/hennyu/techennyu1
2.4(3) [3]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の編入が行われていますか？	◎	公開している入試要項に定める内容に従い入試を行うために、入試実施要項を定め運用している。また、各年度の入学者数が示すように入試が実施され、必要な資質を持った学生を入学させるための選抜が行われている。		【J19】編入学入試実施要項の例(平成29年度工学部編入学(一般選抜)試験における面接試験実施要項) 【T41】各年度の編入学者数、応募者数データ
2.4(4)	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められ、関係する教員及び学生に開示されていること。また、それに従って履修生の異動が行われていること。				
2.4(4) [1]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められていますか？	◎	転学部・転学科については、宮崎大学学務規則第33条で規定されている。さらに、転学部については、宮崎大学転学部規定ならびに宮崎大学工学部転学部に関する内規を制定し、具体的な審査基準を設けている。また、転学科については、「転学科の取り扱いに関する申し合わせ」を制定している。		・宮崎大学学務規則(p.7第33条(転学部、転学科及び転課程)) http://www.miyazaki-u.ac.jp/kitei/gakugai/koukaikitei/gakumukisoku.pdf 【T40】転学部・転学科等について(平成28年度キャンパスガイドp.171) 【J06】平成28年度キャンパスガイド 【T41】転学科の取り扱いに関する申し合わせ

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(4) [2]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法が関係する教員及び学生に開示されていますか？	◎	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合の方法について、キャンパスガイド等により開示している。		【T40】 転学部・転学科等について(平成28年度キャンパスガイドp.171) 【J05】 平成28年度キャンパスガイド
2.4(4) [3]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法に従って履修生の異動が行われていますか？	◎	転学部は、規定に従って申請条件を確認し、条件を満たせば面接により審査し、教授会の議を経て決定される。転学科についても同様の選抜方法で行われている。 この規程に従い、当該プログラム履修生の他学科への異動が認められたケースがある。		【T42】 転学科学生(2012年度第26回臨時教室会議議事録、第28回教室会議議事録、第32回教室会議議事録)
2.5	2.5 教育環境・学生支援				
2.5(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されており、それらを維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていること。				
2.5(1) [1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されていますか？	◎	学科には学生が利用できる実験室、学生研究室、セミナー室、学部には教室や授業時間外に利用できる自習室、大学には図書館、食堂、休憩や運動施設と設備、学内無線LANなどがあり、プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な施設と設備が整備されている。 以上に加えて、学科専用の情報教育用計算機システムと2つの演習室を有する。	図書館の一階にはラーニングコモンズ（自由学習室・グループ学習室・セミナー室）が新設された。平成26（2014）年に宮崎大学創立330記念交流会館が竣工し、学生の学習と生活の環境がさらに改善された。 また、情報教育用計算機システムの更新を行った。	・学部Webページ(教室の収容人数と設備設置状況) http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/kyouiku/pdf/room_map.pdf 【T43】 工学部建物平面図(平成28年度キャンパスガイドpp.232-238) 【J06】 平成28年度キャンパスガイド 【T44】 情報システム工学科面積詳細 ・附属図書館Webページ(利用案内：ラーニングコモンズ) http://opac.lib.miyazaki-u.ac.jp/?page_id=178 ・宮崎大学創立330記念交流会館 http://www.chodai.co.jp/news/docs_mt/20141224.pdf 【J20】 情報教育用電子計算機システム構築工事完成図書
2.5(1) [2]	上記の施設、設備を維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていますか？	◎	教育目標を達成するのに必要な施設・設備を整備し、維持・運用するのに必要な財源確保に積極的に取り組み、財源を確保している。		【T45】 情報システム工学科の収入の推移
2.5(2)	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.5(2) [1]	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがありますか？	◎	授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組み(附属図書館、工学部国際教育センター、ALC NetAcademy 2、学生なんでも相談、学科オリエンテーション、自習室解放、学年担任制度、ラーニングコモンズ、パソコン実習室など)がある。	工学部および工学研究科における教育の国際化、留学生の受入、工学部の学生の海外大学への留学支援、JICA事業等との連携による外国人技術研修生の受入を推進するため、工学部国際教育センターが設置された。	・附属図書館 http://opac.lib.miyazaki-u.ac.jp/ 【T46】工学部国際教育センターリーフレット ・ALC NetAcademy 2のWebページ https://english.vss.miyazaki-u.ac.jp/anet2/login.aspx 【T47】学生なんでも相談室(平成28年度キャンパスガイドp.19) 【J06】平成28年度キャンパスガイド 【T48】意見や相談受付のご案内 【T06】平成28年度オリエンテーション開催案内 【T49】学生掲示「授業時間外の自習室案内」 【T07】宮崎大学工学部情報システム工学科「履修の手引き」平成28年度版平成28年度入学生用(p.11学年担任制度) ・附属図書館Webページ(利用案内：ラーニングコモンズ) http://opac.lib.miyazaki-u.ac.jp/?page_id=178 【J20】情報教育用電子計算機システム構築工事完成図書
2.5(2) [2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていますか？	◎	「キャンパスガイド」「Webページ」で、教員、職員及び学生に開示されている。		【J06】平成28年度キャンパスガイド ・附属図書館 http://opac.lib.miyazaki-u.ac.jp/ ・工学部国際教育センター http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/iec/ ・工学部Webページ(在学生の方へ) http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/student/
2.5(2) [3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	◎	上記の仕組みに従った活動が行われている。		・附属図書館Webページ(統計) http://opac.lib.miyazaki-u.ac.jp/?page_id=175 【T50】工学部国際教育センター「「海外体験学習」の報告会」 【T51】学生相談実施状況 【T52】演習室(A119)使用状況
3	基準3 学習・教育到達目標の達成				
3(1)	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていること。				
3(1) [1]	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていますか？	◎	個々の科目ごとに、シラバスに定めた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度を評価している。		・シラバス https://syllabus.of.miyazaki-u.ac.jp/syllabus/index2.jsp 【表2】学習・教育到達目標とその評価方法および評価基準 【T21】授業記録ファイル例 【J08】授業記録ファイル 【T53】平成27年度卒業研究発表会審査用紙兼審査表 【J21】卒業論文および卒業論文概要(平成27年度、平成26年度)

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
3(2)	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。編入生等が編入前に取得した単位に関しても、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。				
3(2)[1]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	◎	学生が他の高等教育機関等で取得した単位については、宮崎大学学務規則、宮崎大学既修得単位認定規程で、その評価方法を定めている。この規程の他、単位認定に関し必要な事項は、基礎教育科目については基礎教育委員会、専門科目については工学部において定めている。		・宮崎大学学務規則(p.6第19-22条(他の大学等における授業科目の履修等、他)) http://www.miyazaki-u.ac.jp/kitei/gakugai/koukaikitei/gakumukisoku.pdf ・宮崎大学既修得単位認定規則 http://www.miyazaki-u.ac.jp/kitei/gakugai/koukaikitei/2-7-7.pdf 【T54】「高等教育コンソーシアム宮崎」単位互換、COC+「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」単位互換、放送大学との単位互換について(平成28年度キャンパスガイドp.133) 【T55】英語の認定、外国語科目の単位認定の取扱い(平成28年度キャンパスガイドp.141) 【J06】平成28年度キャンパスガイド
3(2)[2]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	◎	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関しては、上記の評価方法に従って単位認定を行っている。この規程に従い、単位認定が行われたケースがある。		【T56】外国語科目の単位認定申請書(平成28年度キャンパスガイドp.143) 【J06】平成28年度キャンパスガイド 【J22】外国語科目の単位認定申請書(認定事例2015年4月)
3(2)[3]	編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	◎	編入生等が編入前に取得した単位に関しては、宮崎大学既修得単位認定規程で定めている。		・宮崎大学学務規則(p.6第19-22条(他の大学等における授業科目の履修等、他)) http://www.miyazaki-u.ac.jp/kitei/gakugai/koukaikitei/gakumukisoku.pdf ・宮崎大学既修得単位認定規則 http://www.miyazaki-u.ac.jp/kitei/gakugai/koukaikitei/2-7-7.pdf
3(2)[4]	編入生等が編入前に取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	◎	編入生等が編入前に取得した単位に関しては、上記の評価方法に従って単位認定を行っている。平成27年度は3名、平成28年度は2名の3年次編入生に対して、単位認定を行った。	前回受審時に、「共通教育科目の一部に学士課程レベルの授業であることの確認が不十分なものがあるため、改善が望まれる」との指摘を受けた。基礎教育科目（英語）の単位認定については、学士レベルの授業であるべきことに注意し単位認定を行っている。	【J23】編入学生の単位読み替え認定審査書類(平成27年度、平成28年度) 【J24】編入学生の口頭試問結果報告書(平成27年度、平成28年度)
3(3)	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められ、それによって評価が行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
3(3) [1]	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められていますか？	◎	プログラムの各学習・教育到達目標に対して、複数の必修科目を主要科目とし、主要科目群の修得により、各学習・教育目標に対する達成度の総合評価を実施している。	前回受審時に、「複数の学習・教育目標の達成が期待される科目（卒業研究、情報工学特別演習Ia、情報工学特別演習IIa）のシラバスに、関連する各学習・教育目標の個別の評価法が記載されていない。（中略）シラバスには何を評価対象とし、どのような基準で評価するのかが十分に示されていないため、改善が望まれる。」との指摘を受けた。「卒業研究」「プログラミング演習5（前回受審時、情報工学特別演習Ia）」「プログラミング演習6（前回受審時、情報工学特別演習IIa）」のシラバスに、科目内の評価項目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係を記載し、対応する学習・教育到達目標をどのように評価するか明示した。	【表1】学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応 【表2】学習・教育到達目標と評価方法および評価基準 ・シラバス https://syllabus.of.miyazaki-u.ac.jp/syllabus/index2.jsp 【T16】「卒業研究」シラバス 【T17】「プログラミング演習5」シラバス 【T18】「プログラミング演習6」シラバス
3(3) [2]	上記の評価方法と評価基準に従って評価が行われていますか？	◎	上記の評価方法と評価基準に従って評価を行っている。	上記のとおり改善した評価方法と評価基準に従って評価を行っている。	【T57】キャリア支援システム-学習教育到達目標達成度点検ページ例 【J09】キャリア支援システム
3(4)	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していること。				
3(4) [1]	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していますか？	◎	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成している。このことを卒業判定会議で確認している(本学科を卒業するための要件がプログラム修了要件を含んでいるため、卒業判定合格者全員が本プログラムのすべての学習・教育到達目標を達成している)。		【T57】キャリア支援システム-学習教育到達目標達成度点検ページ例 【J09】キャリア支援システム
3(5)	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていること。				
3(5) [1]	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていますか？	◎	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけている。	前回受審時から、基準1(2)の(a)～(i)に対応する各学習・教育到達目標を変更した。	【T14】「2. 履修方法」(情報システム工学科卒業に必要な単位数)(平成28年度キャンパスガイドp. 213) 【J06】平成28年度キャンパスガイド 【T57】キャリア支援システム-学習教育到達目標達成度点検ページ例 【J09】キャリア支援システム
4	基準 4 教育改善				
4. 1	4. 1 教育点検				
4. 1(1)	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに関する活動が行われていること。				
4. 1(1) [1]	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがありますか？	◎	学科内に、教育目標に基づき教育実績の評価と点検を行う「教育実績評価・点検委員会」を組織している。さらに、学部が設置した「キャリア支援システム」上で、プログラムの学習・教育到達目標の達成状況を学生ごとに点検できる仕組みを整えている。また、基礎教育においては、「宮崎大学基礎教育自己点検・評価専門委員会」が設置されている。		・学科Webページ(情報システム工学科教育実績評価・点検委員会規程 http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/jabee/HTkitei.html 【T57】キャリア支援システム-学習教育到達目標達成度点検ページ例 【J09】キャリア支援システム 【T58】宮崎大学基礎教育自己点検・評価専門委員会細則

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
4.1(1)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	教育実績評価・点検委員会規程はWeb上で公開しており、構成委員は教室会議議事次第中で開示している。キャリア支援システムへのログイン権限は学部教員すべてに付与されている。宮崎大学基礎教育自己点検・評価専門委員会細則はWeb上で開示(学内のみ)されている。		・学科Webページ(情報システム工学科教育実績評価・点検委員会規程 http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/jabee/HTkitei.html 【J09】キャリア支援システム 【T59】国立大学法人宮崎大学規程集Webページ
4.1(1)[3]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	◎	各学期で開講した専門科目の講義・演習について報告・議論を行う教員間ネットワークを開催しており、講義・演習ごとに作成する授業記録ファイルには、当該講義における改善点や学生による「授業改善に関する学生によるアンケート」の結果を掲載し教員間で相互に点検している。さらに、当該アンケート集計結果は学生にも科目ごとにWebにより開示されている。また、キャリア支援システムも利用し、各学年担任が修学指導を行っており、基礎教育科目について、「学生による授業評価」、および「教員FD活動レポート」が実施されている。		【T21】授業記録ファイル例 【J08】授業記録ファイル 【T20】「授業改善に関する学生によるアンケート」集計結果 【T60】学生の指導体制(平成28年度キャンパスガイドp.14) 【J06】平成28年度キャンパスガイド 【T07】宮崎大学工学部情報システム工学科「履修の手引き」平成28年度版平成28年度入学生用(p.11学年担任制度) 【T61】平成27年度第1回基礎教育自己点検・評価専門委員会議事次第 【J25】基礎教育教員FD活動レポート
4.1(2)	その仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていること。				
4.1(2)[1]	教育点検の仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含んでいますか？	◎	学部教育改革推進センター・FD部門により、学生に対して「授業改善に関する学生によるアンケート」を、学生の卒業時に「卒業生アンケート」を行い、4年間の教育全般について点検を行っている。また、入学年度、および卒業年度に、教育・学生支援センターにより、「学習カルテ：アンケート」が実施されている。さらに、半期毎に、単位取得状況を保護者に郵送している。加えて、学生の企業見学会の場を活用し、地域ICT企業団体との意見交換会を実施している。		【T62】平成27年度後学期の「授業改善アンケート」(学部)について 【T19】平成27年度「授業改善に関する学生によるアンケート」調査用紙 【T04】平成27年度「卒業生アンケート」調査用紙 【T63】平成27年度卒業生による学部教育評価調査票(質問用紙) 【J26】学習カルテ：アンケート集計結果 【T64】成績送付について(平成28年度キャンパスガイドp.167) 【J06】平成28年度キャンパスガイド 【T65】成績通知書の見方 【T03】平成25年度企業見学会報告書
4.1(2)[2]	教育点検の仕組みは、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていますか？	◎	宮崎大学工学教育研究部自己点検評価及び外部評価実施要項に基づき、学科の教育研究活動の自己点検を行っている。学科の自己点検結果について、工学教育研究部評価規程に基づき、同評価委員会、同スパイラルアップ委員会により点検が行われている。学部による評価結果について、宮崎大学評価規程に基づき宮崎大学評価室による点検が行われ、外部評価の受審計画が策定されている。JABEEによる審査についても、教育点検の仕組み自体の機能を点検する機会として位置づけている。		【T66】宮崎大学工学教育研究部自己点検評価及び外部評価実施要項 【J27】平成27年度工学部情報システム工学科自己評価報告書 ・宮崎大学工学教育研究部評価委員会規程 http://www.miyazaki-u.ac.jp/guide/files/7-1-10.pdf ・宮崎大学工学教育研究部スパイラルアップ委員会規程 http://www.miyazaki-u.ac.jp/guide/files/7-1-11.pdf 【J28】平成27年度工学部・工学研究科自己評価報告書 【T67】宮崎大学評価室設置要項 【T68】外部評価受審計画(平成28年度第2回工学教育研究部企画会議第2回資料9)
4.1(3)	その仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
4.1(3)[1]	教育点検の仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できますか？	◎	教員間ネットワークの記録は学科会議室に保管しており、学科教員は随時閲覧可能である。学科、学部、全学の各組織の委員会の議事録等は電子メールで配信され、オンライン上にも保存されており、学科教員は随時アクセス可能である。		【T69】学科会議室書棚写真 【T70】学科Webdavディレクトリ・ファイル一覧画面 【T71】工学部議事要旨Webページ 【T72】宮崎大学情報共有・検索システムWebページ
4.2	4.2 継続的改善				
4.2	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがあり、それに関する活動が行われていること。				
4.2[1]	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがありますか？	◎	学科内に、教育目標および教育システムの継続的な点検・改善に関する事項を所掌する「教育システム点検・改善委員会」を組織している。教育システム点検・改善委員会の報告に基づき、教育目標を達成するための実施計画を検討・作成する「教育実施計画検討・作成委員会」を組織している。また、新たに教育活動に対する学長表彰制度が定められた。		・学科Webページ(情報システム工学科教育システム点検・改善委員会規程) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/jabee/TKkitei.html ・学科Webページ(情報システム工学科教育実施計画検討・作成委員会規程) http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/jabee/KSkitei.html 【T73】宮崎大学教員教育活動表彰実施要項
4.2[2]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	◎	「教育システム点検・改善委員会」、「教育実施計画検討・作成委員会」、「教員間ネットワーク」での議論に基づき、プログラムの改善を継続に行っている。平成27年度では「工学英語」をe-learningで実施したが、学生の進捗等もあり次年度から担当教員による実施とした。「卒業研究」については卒業評価シートを試作して学科に提案し議論を行い、最終的に新たに策定するガイドラインのもとで運用することとした。さらに、平成29年度から全学的に導入されるクォーター制への対応など、上記各委員会が中心となり学科で議論し、改善を行っている。		【J29】学科教育改善関係委員会議事メモのまとめ 【T74】「工学英語」教材紹介(平成27年度第9回教室会議資料2抜粋) 【T75】「工学英語」スケジュール案(平成27年度第21回教室会議資料3) 【T76】「工学英語」担当教員制提案(平成27年度第22回教室会議議事録抜粋) 【T77】「工学英語」対面形式リマインダ(平成27年度第25回教室会議資料2抜粋) 【T78】「工学英語」担当教員制決定(平成27年度第35回教室会議議事録) 【T79】「卒業研究」評価シート提案(平成27年度第42回教室会議資料2抜粋) 【T80】「卒業研究」ガイドライン制の提案(平成27年度第42回教室会議議事録抜粋) 【T81】「卒業研究」ガイドライン案(平成27年度第45回教室会議資料3)